

# 生徒たちの「美意識」を育む教育を



跡見学園中学校高等学校 副校長

**秋元 世子子**

担当教科は英語。

平成30(2018)年4月より現職。

跡見学園 常務理事(教学担当)

**山田 徹雄**

専門は経済史、経営史。平成29(2017)年度まで跡見学園女子大学学長。平成30(2018)年4月より現職。

跡見学園中学校高等学校 校長

**松井 真佐美**

担当教科は数学。

平成30(2018)年4月より現職。

平成30(2018)年4月に松井真佐美校長が就任して以来、跡見学園中学校高等学校はさまざまな改革を進めてまいりました。どのような改革が行われてきたのか、新型コロナウイルス感染症対策下の教育という新しい局面をどう乗り越えているのかなどについて、山田徹雄常務理事がインタビューしました。

## 早くから取り組んだICT教育が功を奏し

**山田** お二人が校長、副校長という新執行部が発足してまもなく3年が経とうとしています。今年度は「コロナ禍」という歴史的に異常な事態に遭遇されましたね。

**松井** 今年度は学校生活が制限されてしまったのですが、9月に中学1年生の部活の仮入部受付が始まった途端、朝から職員室にたくさん生徒が意気揚々と仮入部届を持って来る姿を見て、「いろいろなことにチャレンジしたいんだな」「やってみよう!という気持ちのある子が多いんだな」と感じることができました。

また、体育祭も文化祭も開催されなくなりました。7月には「七夕飾りをやりたい」と生徒会の生徒たちが企画を出したり、学校説明会に向けて階段装飾をやったりなど、クラブ活動や生徒会活動、各学年で、「自分たちのできることをやろう、チャレンジしていこう」という気持ちがあるいろいろな形で見えています。

**山田** 非常に活発な雰囲気があるんですね。松井校長になつてから、跡見学園がどのように変わってきたと副校長は感じますか?

**秋元** 大きく変わったのは「いろいろなものが一つひとつ実現されていっている」ということですね。たとえば、ICT教育では昨年<sup>※</sup>度は高1・高2の2学年から、

今年度は全員にiPad（タブレット端末）を配布しましたし、教室にプロジェクターを入れ大きな画面で情報を共有することで、授業運営が効率良くなりました。問題意識を持ちそれをどうやって実現していくのかを、松井校長は各所と話をし、意思疎通を行いながら筋道を立てて実現していると思います。また、学年主任はすぐに学年に、教科主任は教科にと、学校全体のコミュニケーションが活発になっています。

**松井** ICT教育の取り組みは、コロナ禍で効果を発揮しましたね。

**山田** というのは？

**秋元** もともと3年計画のiPad導入でしたが、ICT支援員が配置できるなら…と、今年度残りの全学年にiPadを持たせることができました。まあ、中国の工場がコロナでストップと聞いたときは心配しましたが。

**松井** 計画を前倒しして一気に進めた感じですか。ですから、教員も急遽ICTのスキルを高める必要がありました。学校が休校になりましたから、オンラインで授業をやることになったのですが、私は

「双方向」と言うけれども、「iPadの画面を6時間も見続けるのはどうなのか？」と思いましたが。大切なのは担当がクラスの生徒と顔を合わせて「元気に生活しているのか」ということを見ることではないかと。それで全担任に「Zoom（双方向のミーティングアプリ）で朝礼をやってください」とお願いをしました。まずは各教室に担当が散らばり教員朝礼をやってみました。その後、各担当がクラスの朝礼を実施するようになりました。これにより、保護者の方も安心してくださったようです。

ICT支援員の導入も以前から計画していたことで年度始めに配

## 教育内容を充実させて、入試に反映

**山田** 学校として「入口（入学）」「教育」「出口（卒業後）」の3つの側面から見えていきたいのですが、まず「入口」である「入試」についてお話を伺いたいと思います。

**松井** 私たちが心がけてきたことは、入試を変えることから始めるのではなくて、学校の教育活動はどうするかを考え、入学した生徒が「こんなはずじゃなかった」とならないように、教育内容を見直

置でき、専門家の手助けでICT教育がスムーズに進みました。オンラインの授業において、どういうアプリでどんなことをしたらよう生徒の身につくものになるのかのアドバイスをいただき、ただ流すだけや、ただ受け止めるだけにしないようにしました。

**秋元** 若い先生方にも助けられましたね。彼らは詳しいし、聞けばすぐに教えてくれます。こうやって情報を共有し、結果的に教員のICTスキルの向上が図られたと思います。

注1 ICT教育・ICTは「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、情報機器、通信技術を活用した教育のこと。

し新しい目標を立て新しい教育ビジョンを作ることです。

かつ、それが私たちの代だけで終わらないようにPDCA<sup>※注2</sup>を具現化する。つまり、若い世代に引き継がれていくようなビジョンにしたいと思いました。そこで、「将来構想プロジェクト」を立ち上げ、若い先生たちに「自分たちが学校を牽引していくとしたらこうしたい」という構想を描いても

らっています。

**秋元** 「美意識」という提案を受けたときは「ステキな発想だな」と思いました。この言葉は、「どのような生き方や考え方を美しいと感じ、どのようなことを恥ずかしいと感じるか」「自分がどういう人間で、絶対に譲れない大切なものは何か」という各人が持つべき価値観を表すことです。

**松井** 学校説明会で『美意識』を育てるためにこういうことをやっています」とご説明すると、保護者の方から「わかりやすい」という声をいただきます。跡見の伝統的なイメージと相まって「跡見で学べばこういう成長ができる」とイメージしていただけるようです。

そして、跡見で行っている教育活動をわかっていただいた上で「こういう入試があります」と伝えていきます。「言葉を大事にする教育を行っています」ということで、新しく「国語重視型入試」を





「非常に活発な雰囲気がありますね」  
山田 徹雄 常務理事

導入しました。結果として受験者数が増え、「外部の方に伝わっているんだ」と実感しています。

**秋元** 最近は個別相談で「跡見に入学したいのですが、どうやったら合格できますか？」とおっしゃる熱心な方々が増えており、やっ

## ● 学園生活のメインは「授業」

**山田** では、入学してからの「教育の質の向上」という点ではいかがですか？

**秋元** 教員は授業で勝負です。まずは以前から行っている「授業評価アンケート」を継続して行っています。生徒全員に授業の評価をしてもらい、外部の専門家に診断してもらおうのです。

さらに現執行部から始めたのは、外部の専門家による「授業診断」です。客観的に「いい授業とはどういう授業なのか、どこをポイントに見るべきなのか」ということをやっています。毎年15人の教員が診断を受けるのですが、「今年も見たいです」と自主

できたことの成果が現れてきているのだと思います。数値的にも大手の塾での偏差値も上がってきていて、手応えを感じています。

注2 P D C A : Plan (計画) ↓ Do (実行)  
↓ Check (評価) → Action (改善) のサイクルを繰り返し行うことで、継続的な業務の改善を図る技法。

的に手を挙げる若手の教員もいて、一人ひとりの教員の「教える力を向上させていこう」という意欲を感じています。専門家の指摘が的確で、「ここを直せばいいのだ」と納得できるのだと思います。

**松井** 私は数学科ですが、数字を見る力はこの場所でも必要です。数学を学ぶ意義は、論理的思考力の醸成です。その力をつけるために授業の中で「Smaller Step」を大事にし、一つひとつ「これができた！」という自信を積み重ねていけるようにしています。

**秋元** 私は英語教員なので、これからの社会では当たり前が必要となるコミュニケーションツールとして、基本的な力を6年間で培っていきたくと思います。イングリッシュキャンプやオンライン英会話も取り入れ、物怖じせず外国人と交流できる力をつけたいですね。

## ● 「コロナ禍でも」やれることはやる」という姿勢で

**山田** 卒業後の進路についてはいかがですか？

**松井** 今の世の中の流れかもしれませんが、医療系を目指す生徒が増えていると思います。一生できる仕事を目指す生徒、人を助けたという気持ちの強い生徒が増えている気がします。

**秋元** 海外の学校を視野に入れている生徒も増えていきますね。跡見を卒業後、一度日本の大学を卒業してから行く生徒もいますし、高校を卒業してすぐに海外の大学に行く生徒もいます。

**山田** 多様化しているのは素晴らしいですね。ところで、「withコロナ」の時代を迎えての今後の展望はいかがですか？

**松井** 昨年2月末に国から休校要請があったときは大変でした。卒業式、入学式をどうするかもありましたし、生徒が感染したり濃厚接触者となった場合の対処方法なども決めなくてはいけませんでした。6月から分散登校が始まるにあたって顔認証付きの検温器を導入するなどさまざまな対策を実施しました。

「withコロナ」の時代ですが、生徒たちが「これがやりた

い」と願ったことはなるべく実現させるようにしています。中3の修学旅行、高2の研修旅行も今年3月に延期し、感染対策を行いつつながら貴重な体験ができるように準備しています。

昨年12月の音楽会も実は海外からの音楽家を招待していたのですが、コロナ禍で来日できなくなつたので、急遽日本の音楽家に変更し、なるべく「やめる」という結論は出さないで、「どうすればできるか」と考えました。

**秋元** 「今、できることはやっておく。どうやったらこの状態でできるかを考える」というように、いつも瞬間瞬間の判断が求められると思います。

**松井** これからも、145年続いてきた跡見の良さを活かしつつ、時代の変化にも対応した教育を展開したいと考えています。

**山田** ありがとうございます。



「生徒たちの積極的な姿勢に励まされます」  
松井 真佐美 校長